

スーパーマーケット販売統計調査資料

2016年10月実績 速報版(パネル270)

9月実績 確報版(パネル270)

(2016年11月22日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2016年11月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2016年10月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,560,750	100.0%	104.2%	101.7%
食品合計	79,265,718	89.5%	104.7%	102.2%
生鮮3部門合計	30,496,564	34.4%	105.2%	102.5%
青果	13,024,339	14.7%	108.7%	106.1%
水産	7,531,006	8.5%	102.1%	99.6%
畜産	9,941,219	11.2%	103.1%	100.2%
惣菜	8,736,211	9.9%	105.5%	102.7%
日配	17,253,598	19.5%	105.2%	102.3%
一般食品	22,779,346	25.7%	103.5%	101.6%
非食品	6,748,811	7.6%	100.7%	100.0%
その他	2,546,264	2.9%	98.7%	97.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,184,831	43	104.1%	102.6%
関東地方	32,641,745	73	104.5%	102.4%
中部地方	10,968,313	53	105.9%	101.1%
近畿地方	19,136,275	44	102.2%	100.4%
中国・四国地方	9,165,657	34	108.2%	102.1%
九州・沖縄地方	4,463,928	23	101.5%	101.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	780,094	47	98.5%	98.5%
4~10店舗	3,715,220	68	100.9%	100.4%
11~25店舗	10,048,978	65	102.3%	101.3%
26~50店舗	17,094,751	47	104.7%	101.5%
51店舗以上	56,921,707	43	104.6%	101.9%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,620,781
総店舗数 (店舗)	7,719	店舗平均月商 (万円)	11,473
総売場面積 (㎡)	12,735,712	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.0

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2016年11月22日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2016年9月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	84,663,891	100.0%	101.1%	98.8%
食品合計	76,274,381	90.1%	101.7%	99.2%
生鮮3部門合計	29,150,110	34.4%	100.1%	97.5%
青果	12,354,890	14.6%	100.0%	97.6%
水産	7,394,485	8.7%	99.8%	97.3%
畜産	9,400,736	11.1%	100.5%	97.7%
惣菜	8,478,564	10.0%	103.0%	100.1%
日配	16,672,552	19.7%	103.1%	100.5%
一般食品	21,973,155	26.0%	102.2%	100.0%
非食品	5,997,068	7.1%	97.3%	96.6%
その他	2,392,487	2.8%	95.1%	94.5%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,472,937	43	100.9%	99.4%
関東地方	31,262,030	73	101.3%	98.7%
中部地方	10,397,001	53	101.6%	97.6%
近畿地方	18,593,403	44	100.3%	99.0%
中国・四国地方	8,589,111	34	102.9%	98.3%
九州・沖縄地方	4,349,409	23	100.7%	100.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	747,296	47	95.7%	95.7%
4~10店舗	3,564,753	68	97.7%	97.8%
11~25店舗	9,561,140	65	99.1%	97.8%
26~50店舗	16,230,632	47	101.2%	98.7%
51店舗以上	54,560,069	43	101.8%	99.2%

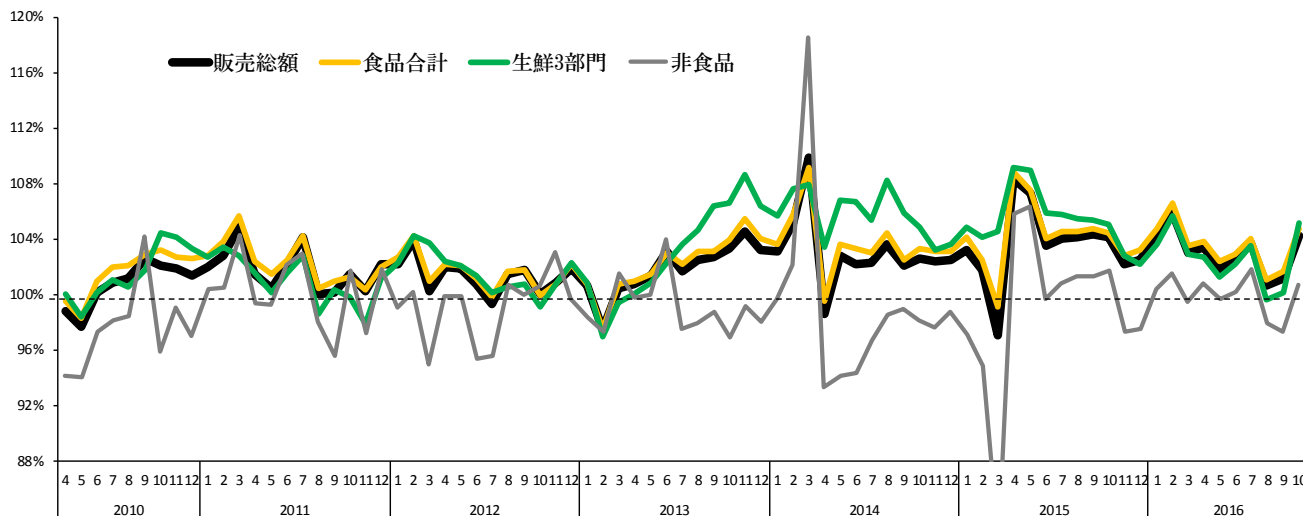
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	81,977,016
総店舗数 (店舗)	7,711	店舗平均月商 (万円)	10,980
総売場面積 (㎡)	12,709,654	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

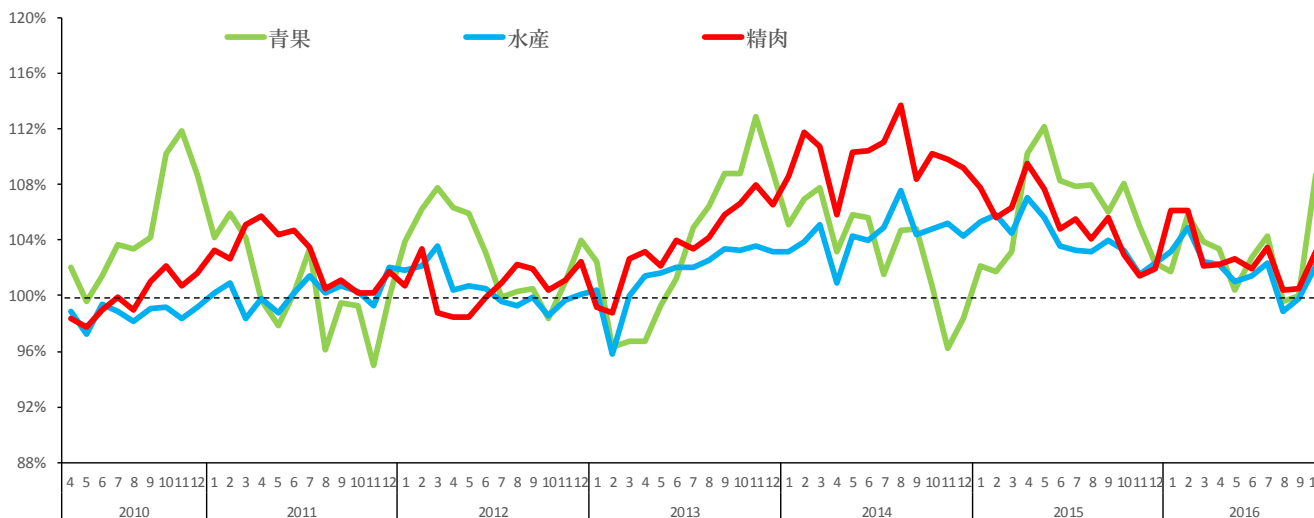
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2016年10月(前年同月比/全店ベース)

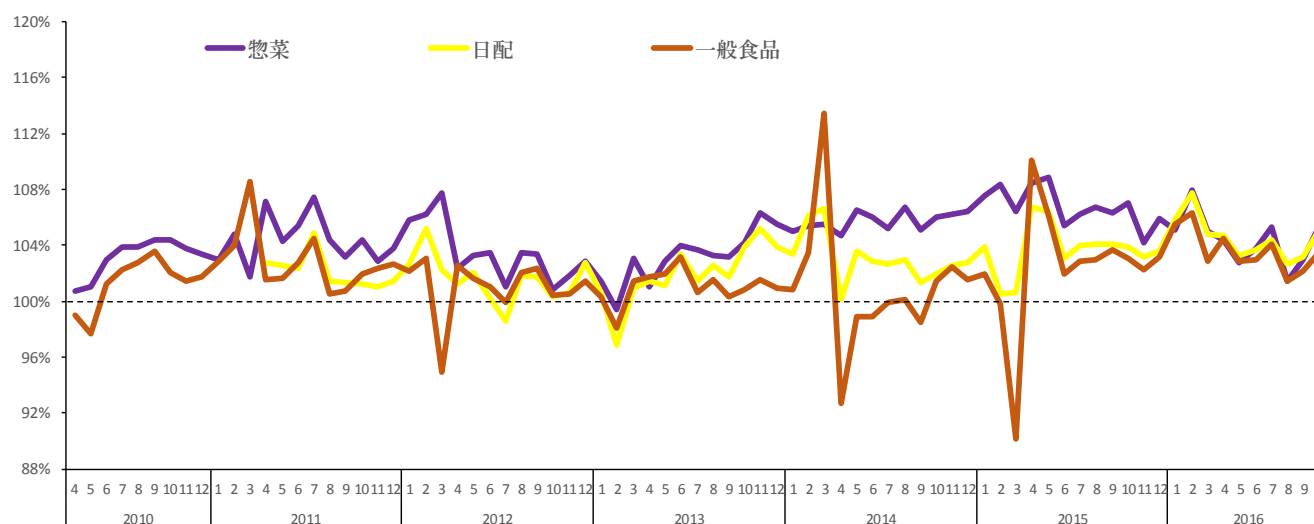
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2016年9月までは確報版による前年同月比、2016年10月は速報版による前年同月比
 ※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」、「非食品」に「その他」を含む

2016年10月エリア別気候状況

1. 平均気温：東・西日本、沖縄・奄美では気温がかなり高かった、北日本では下旬に記録的な低温

上旬：東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高く、北日本では高かった。

中旬：沖縄・奄美ではかなり高く、東・西日本では高かった。

下旬：沖縄・奄美、西日本ではかなり高かった。一方、北日本ではかなり低かった。

2015年10月との比較：上旬は全国的にかなり高く、中旬は西日本を中心に高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2016年10月			2015年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.2	-0.2	-3.1	-0.4	-0.6	-1.4	0.6	0.4	-1.7
東北地方	1.5	-0.1	-0.9	-0.4	-0.2	-0.2	1.9	0.1	-0.7
関東甲信地方	3.0	0.7	0.4	-0.4	0.5	1.4	3.4	0.2	-1.0
北陸地方	2.1	0.3	-0.4	-0.7	-0.7	0.1	2.8	1.0	-0.5
東海地方	2.6	0.9	0.9	-0.7	0.1	1.1	3.3	0.8	-0.2
近畿地方	2.9	1.1	0.7	-0.8	-0.2	0.8	3.7	1.3	-0.1
中国地方	2.9	0.8	1.1	-0.8	-0.6	0.3	3.7	1.4	0.8
四国地方	3.2	1.6	1.7	-0.8	-0.6	0.8	4.0	2.2	0.9
九州北部	3.5	1.4	2.1	-1.1	-0.9	0.7	4.6	2.3	1.4
九州南部・奄美地方	3.3	1.5	2.6	-1.0	-0.8	0.8	4.3	2.3	1.8

平年差

+2°C以上	-2°C以上
+1°C以上	-1°C以上

前年差

+2°C以上	-2°C以上
+1°C以上	-1°C以上

2. 日照時間：西日本では月間日照時間がかなり少なかった

上旬：東日本太平洋側ではかなり少なく、北・東日本日本海側、西日本では少なかった。

中旬：西日本ではかなり少なかった。一方、北日本太平洋側ではかなり多く、東日本日本海側では多かった。

下旬：北・西日本日本海側ではかなり少なく、東日本、西日本太平洋側では少なかった。一方、沖縄・奄美では多かった。

2015年10月との比較：月を通して前年より日照時間は短くなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2016年10月			2015年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	115	117	72	97	107	103	18	10	-31
東北地方	101	127	102	143	122	114	-42	5	-12
関東甲信地方	79	114	91	167	135	125	-88	-21	-34
北陸地方	79	118	84	142	136	111	-63	-18	-27
東海地方	63	106	72	138	136	139	-75	-30	-67
近畿地方	80	98	67	131	144	148	-51	-46	-81
中国地方	81	80	52	134	135	132	-53	-55	-80
四国地方	94	62	64	128	138	149	-34	-76	-85
九州北部	83	49	51	121	137	132	-38	-88	-81
九州南部・奄美地方	91	38	82	128	121	129	-37	-83	-47

平年差

平年比150%以上	平年比50%以下
平年比125%~149%	平年比51%~75%

前年差

+50%以上	-50%以下
+25~49%	-25~-49%

3. 降水量：台風第16号により西日本中心の大雨

上旬：西日本日本海側ではかなり多く、北・東日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美では多かった。一方、東日本太平洋側では少なかった

中旬：沖縄・奄美では多かった。一方、北日本太平洋側ではかなり少なく、北・東日本日本海側では少なかった。

下旬：西日本日本海側ではかなり多く、西日本太平洋側では多かった。一方、北日本太平洋側、東日本日本海側、沖縄・奄美では少なかった。

2015年10月との比較：特に西日本では、月を通じて降水量が多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2016年10月			2015年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	107	65	68	233	71	77	-126	-6	-9
東北地方	114	23	66	69	30	44	45	-7	22
関東甲信地方	44	58	68	34	46	6	10	12	62
北陸地方	129	41	70	94	43	68	35	-2	2
東海地方	69	101	90	57	36	12	12	65	78
近畿地方	68	76	67	61	8	28	7	68	39
中国地方	114	114	65	117	6	33	-3	108	32
四国地方	89	62	123	49	1	19	40	61	104
九州北部	287	79	328	205	9	66	82	70	262
九州南部・奄美地方	188	97	295	46	2	66	142	95	229

平年差

平年比150%以上	平年比50%以下
平年比125%~149%	平年比51%~75%

前年差

+50%以上	-50%以下
+25~49%	-25~-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「10月の気候」参照

平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2016年11月調査結果（10月実績）
（2016年11月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

11月調査（10月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は大きく改善、見通し判断も改善傾向を示す

10月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+5.1の45.4、見通し判断も前月から+2.6の42.3となり、共に改善を見せた

経営動向調査は、売上高DIが0.1（前月比+12.6）とわずかながらプラス、収益DIは-6.8（前月比+4.8）とマイナス幅を縮小するなど、すべてのDIが上昇をみせた。日曜日が一日多い曜日めぐりにより、来客数DIが-6.4（前月比+4.4）とわずかに上昇し、青果相場高などで生鮮仕入原価DIが大きく上昇し、販売価格DI、客単価DIがともにプラスとなったことが売上高の改善につながっている。

カテゴリー動向結果でも、同様の追い風を受け、一般食品を除くカテゴリーではDIが大きく上昇しており、特に青果DIは14.2（前月比+22.1）と二桁のプラスを記録した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はすべてのDIが前月に比べ、改善をみせた。特に現状判断DIの改善幅が大きくなっている。今回の改善が、2015年の秋以降続く弱含みな傾向からの反転につながるかどうかは、この先の動向を確認する必要がある。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

難しい外部環境も重なり2ヵ月連続で悪化していた動向から一転して、曜日と相場の追い風を受け10月は全ての面で大きく改善をみせた。以前から指摘している見通し判断にもわずかながら回復傾向がみられているのは明るい材料といえる。一過性か、底打ちの兆候かを見極めるためにも、次月以降の動向を注視する必要がある。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：45.4 (+5.1) 前月：40.3	消費者購買意欲DI 当月：45.9 (+4.2) 前月：41.7	周辺地域 競合状況DI 当月：42.4 (±0) 前月：42.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.2 (+2.8) 前月：43.4
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：42.3 (+2.6) 前月：39.7	消費者購買意欲DI 当月：44.1 (+2.8) 前月：41.3	周辺地域 競合状況DI 当月：40.9 (+0.9) 前月：40.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：44.8 (+1.4) 前月：43.4
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：0.1 (+12.6) 前月：-12.5	客単価DI 当月：5.2 (+10.3) 前月：-5.1	来客数DI 当月：-6.4 (+4.4) 前月：-10.8	
収益DI 当月：-6.8 (+4.8) 前月：-11.6	販売価格DI 当月：6.2 (+6.7) 前月：-0.5	生鮮品仕入原価DI 当月：18.4 (+9.7) 前月：8.7	食品仕入原価DI 当月：3.1 (+0.9) 前月：2.2

カテゴリー動向

青果DI 当月：14.2 (+22.1) 前月：-7.9	水産DI 当月：-8.8 (+4.5) 前月：-13.3	畜産DI 当月：-5.9 (+5.0) 前月：-10.9	
惣菜DI 当月：7.2 (+6.7) 前月：0.5	日配DI 当月：1.6 (+5.3) 前月：-3.7	一般食品DI 当月：-4.4 (-1.6) 前月：-2.8	非食品DI 当月：-4.4 (+7.5) 前月：-11.9

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

11月調査（10月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

2015年3月以来の二桁のマイナスを記録後、当月はプラス圏に上昇

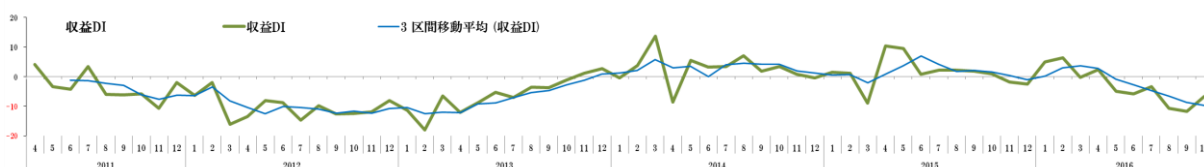
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	12.6	42.2	30.1	12.6	2.4	-12.5
売上高 (当月)	5.7	26.9	31.6	32.6	3.1	0.1



2. 収益DI

2013年4月以来の二桁マイナスを記録後、当月はやや上昇

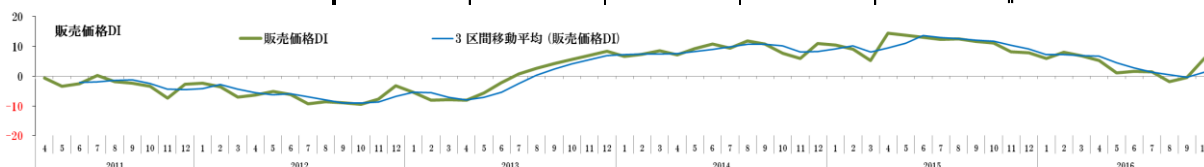
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	12.9	37.3	35.3	11.9	2.5	-11.6
収益 (当月)	10.2	29.9	38.0	20.9	1.1	-6.8



3. 販売価格DI

2013年6月以来のマイナスを記録後、当月はプラス圏まで上昇

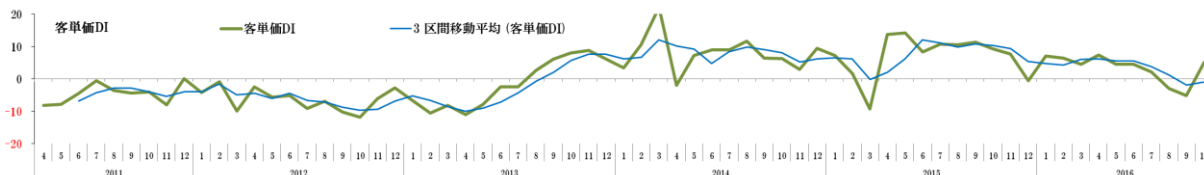
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.5	19.1	62.7	17.2	0.5	-0.5
販売価格 (当月)	0.0	11.1	54.2	33.7	1.1	6.2



4. 客単価DI

2015年12月以来のマイナスを記録後、当月はプラス圏まで上昇

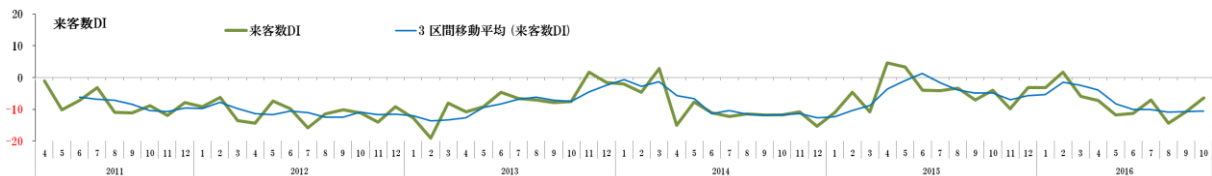
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.0	31.2	52.7	13.7	0.5	-5.1
客単価 (当月)	0.0	17.3	45.0	37.2	0.5	5.2



5. 来客数 DI

マイナス圏での低迷が続いているが、当月はやや上昇

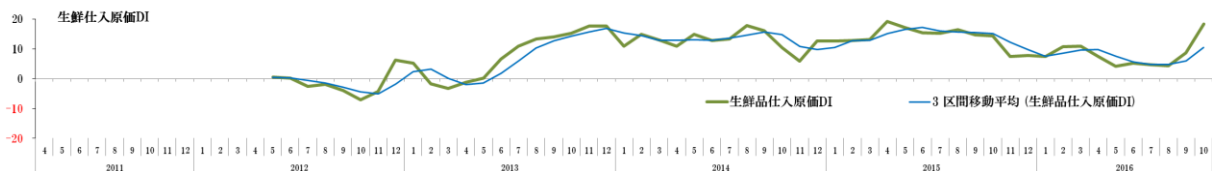
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	7.8	42.2	35.9	13.6	0.5	-10.8
来客数 (当月)	4.2	38.5	35.9	21.4	0.0	-6.4



6. 生鮮仕入原価 DI

当月二桁のプラス大きく上昇

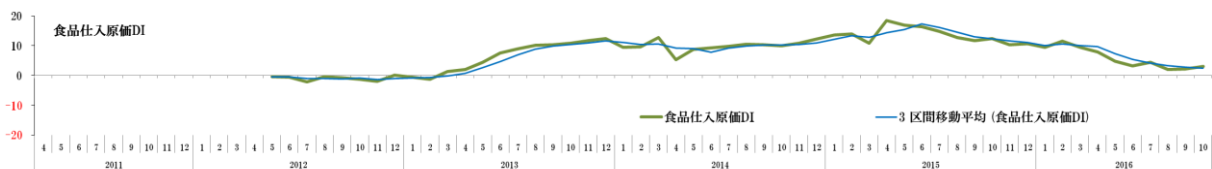
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.0	10.9	45.8	36.8	5.5	8.7
生鮮仕入原価 (当月)	1.1	3.8	30.1	50.5	14.5	18.4



7. 食品仕入原価 DI

引き続きプラス圏を維持、横ばいで推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.5	6.5	76.6	12.4	3.0	2.2
食品仕入原価 (当月)	2.7	5.3	70.1	20.9	1.1	3.1

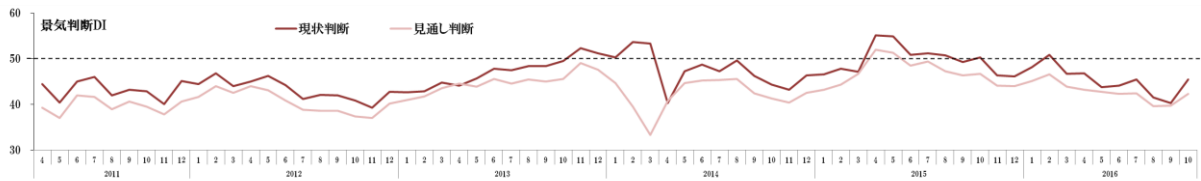


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は大きく改善、見通し判断も小幅に改善をみせる

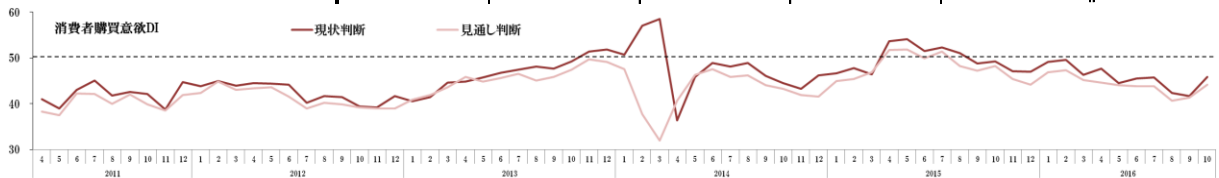
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	3.4	35.4	58.3	2.4	0.5	40.3
【現状】景気判断 (当月)	1.5	22.2	69.6	6.7	0.0	45.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	3.9	35.9	57.8	2.4	0.0	39.7
【見通し】景気判断 (当月)	2.6	28.6	65.6	3.1	0.0	42.3



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大きく改善、見通し判断も小幅に改善をみせる

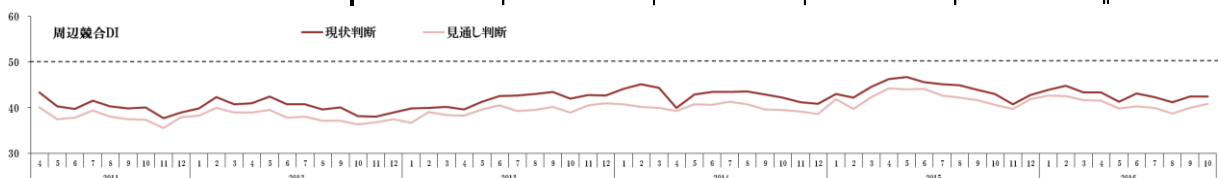
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	35.4	60.7	3.4	0.0	41.7
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	24.1	68.2	7.7	0.0	45.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	35.1	62.9	1.5	0.0	41.3
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	26.8	70.1	3.1	0.0	44.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に大きな変化は見られず

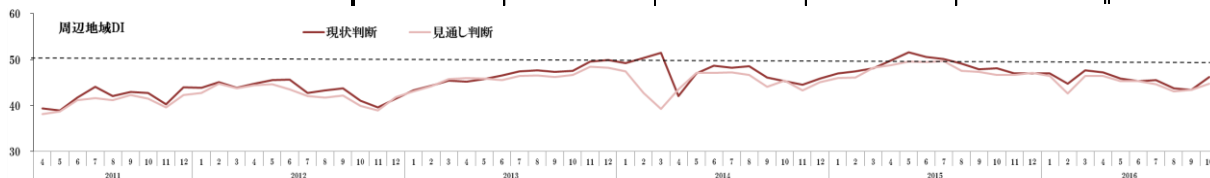
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.4	26.7	69.9	1.0	0.0	42.4
【現状】競合状況 (当月)	2.6	26.2	70.3	1.0	0.0	42.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.3	25.7	66.5	0.5	0.0	40.0
【見通し】競合状況 (当月)	5.7	26.3	67.0	1.0	0.0	40.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は大きく改善、見通し判断も小幅に改善をみせる

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.0	25.4	72.7	1.0	0.0	43.4
【現状】地域景気 (当月)	0.5	17.1	79.3	3.1	0.0	46.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	25.5	74.0	0.0	0.0	43.4
【見通し】地域景気 (当月)	1.0	19.7	78.2	1.0	0.0	44.8

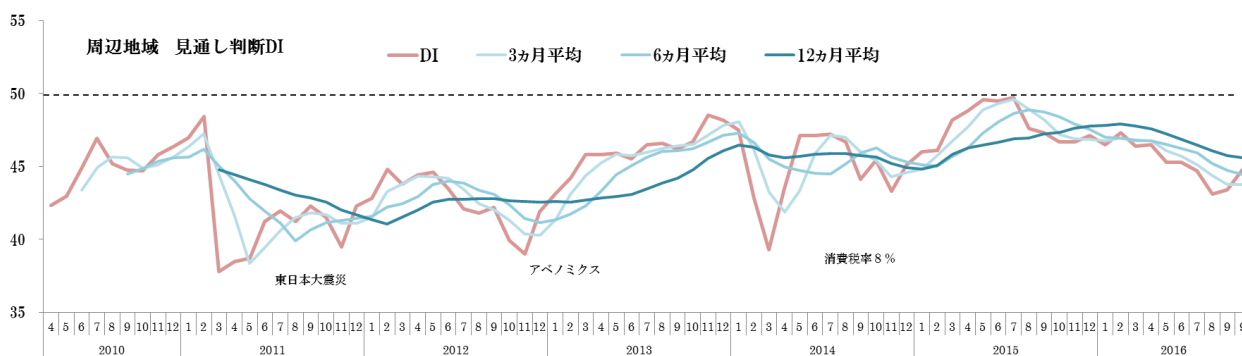
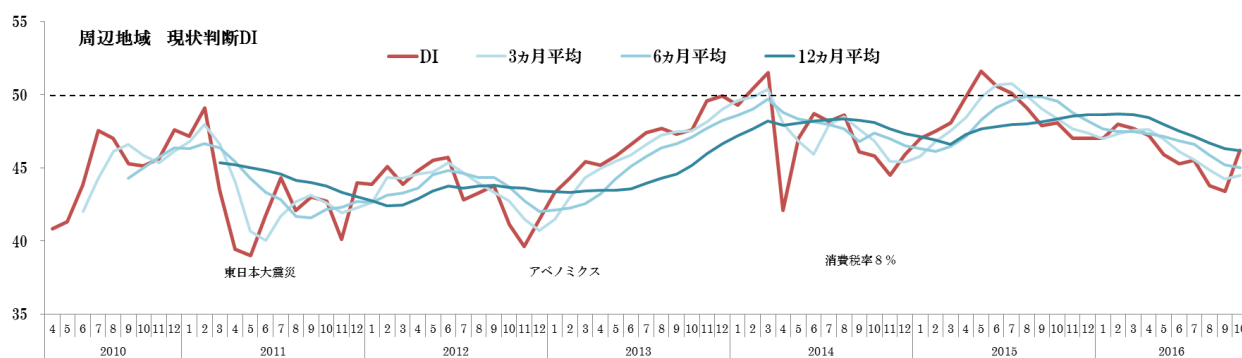


長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。

その後、6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月以降は横ばいでの推移、2016年3月に再び悪化をみせた。その後、再び横ばいでの推移となっていたが、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善を示している。

2016年4月に13ヵ月ぶり「12ヵ月移動平均」がマイナスを記録しており、他期間の移動平均線も同様にマイナスでの推移を続けている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：14.2（好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	9.7	38.5	30.8	15.9	5.1	-7.9
青果 (当月)	3.3	14.8	24.6	36.6	20.8	14.2



台風被害などで薬物根菜類が相場高となり買い上げ数量減となっているものの、一品単価の上昇により総じて売上は好調となった。相場高の影響を受け、小分けや少量販売、カット野菜が好調となっている。サラダ商材は相場高にも関わらず、数量増となっている店舗もみられる。果物でも相場高でも好調とするコメントが多いが、輸入果実は好調、ぶどうやみかんやりんごは好不調分かれる結果となっている。

2. 水産DI：-8.8（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	12.8	43.1	30.8	11.3	2.1	-13.3
水産 (当月)	8.7	38.0	34.2	17.9	1.1	-8.8



サンマの不漁と小型化、魚種の不足により売上不振となりカテゴリー全体でもやや不調となった。特に上旬は、平年より高い気温によりまぐろ、サーモン、かつおなどの刺身類の動きがよい反面、おでん・鍋物商材の動きが悪かった。秋鮭も相場が高く苦戦、気温が高かったことでうなぎが好調とのコメントもみられた。

3. 畜産DI：-5.9（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	13.8	36.4	31.3	16.4	2.1	-10.9
畜産 (当月)	6.0	38.3	31.7	21.3	2.7	-5.9



牛肉は和牛の相場高が続いているため、国産牛や輸入牛の販売に力を入れている店舗が多い。相場の落ち着きいる豚肉や鶏肉では数量確保できた店舗では好調、伸び悩みをみせた店舗では不調となっている。平年より高い気温により、焼肉用商材は好調、すきやきや鍋物商材は不調となっている。加工品は回復傾向とする店舗と引き続き不振とする店舗に判断が分かれている。

4. 惣菜DI：7.2（やや好調）

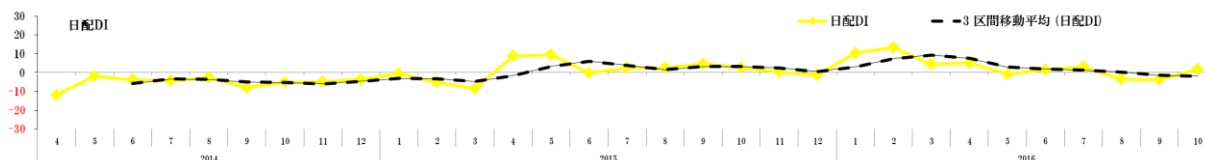
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.2	23.3	39.4	24.4	6.7	0.5
惣菜（当月）	3.8	16.4	36.6	33.3	9.8	7.2



青果物相場高の影響で、サラダ関連や和洋惣菜、気温の影響で寿司類なども好調となった。旬の食材を使ったメニューや健康志向の提案などの取組みが成果をあげているほか、時間帯別のチャンスロス削減に取り組んでいる店舗が多くみられた。

5. 日配DI：1.6（やや好調）

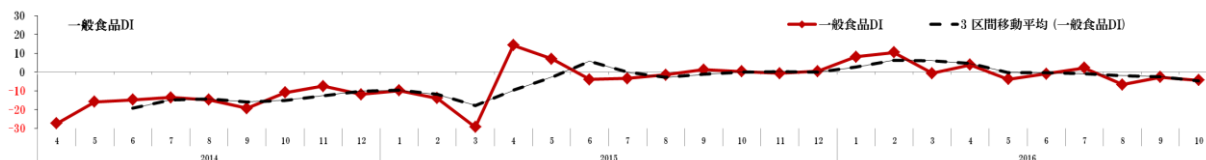
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.7	27.7	42.6	20.0	3.1	-3.7
日配（当月）	4.3	18.5	47.3	26.1	3.8	1.6



上旬は、平年より高い気温により夏物・涼味関連商材（アイス・飲料）が好調となる一方で、秋冬商材の練り物やおでん関連が不振となったものの、中旬以降の気温低下により少しずつ動きがよくなった店舗もみられた。野菜の高騰による冷凍野菜や漬物、機能性ヨーグルトや乳酸菌飲料が引き続き好調となっている。

6. 一般食品：-4.4（やや不調）

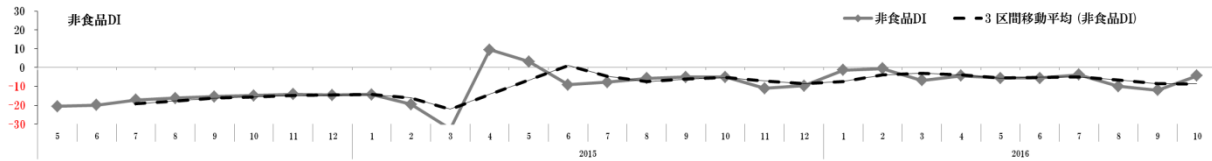
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.7	27.8	42.3	20.6	3.6	-2.8
一般食品（当月）	6.6	29.5	41.0	20.8	2.2	-4.4



平年より高い気温により、秋冬商材の動きが悪い一方で、夏物・涼味関連商材（飲料、乾麺やつゆなど）が好調、単価上昇を追い風に新米が好調とする店舗が多くみられた。野菜の高騰により、野菜飲料が好調、菓子類はハロウィン関連で好不調がわかれ、アルコール類は不調とするコメントが多くみられた。価格競争の厳しさが影響しているとの指摘も多い。

7. 非食品 DI：-4.4（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.5	40.7	38.6	10.1	1.1	-11.9
非食品（当月）	7.3	27.5	44.9	15.7	4.5	-4.4



中旬以降気温の低下と季節商品の動きがよくなった店舗もみられたが、他業態との競合で引き続き厳しい状況にあり伸び悩みをみせている。衣料洗剤類や紙類などが比較的好調とのコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2016年11月調査（10月実績）キーワード TOP3

1. 曜日めぐり（日曜日が一日多い）
2. 天候要因（気温が高い）
3. 青果相場高

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10月実績速報版 194社
 9月実績確報版 206社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp